

県道宮崎須木線を活用し 綾町と連携し観光振興目指す

10月11日、市と綾町は広域での観光振興を図るため「小林・綾地区広域観光協議会（肥後正弘会長）」を設立しました。須木地区と綾町をつなぐ県道を活用した新たな周遊観光ルート確立のため、国土交通省の「周遊観光ルート創造に向けた山間部道路の賢い運用方法社会実験」を行います。



11月26日、12月3日、10日に一部区間を3時間ごとに一方通行にし、バスツアーやイベントを行い効果を測定します



地井さんは「地域の皆さんのアイデアもいただきながら、ここでしか味わえないものを提供していきたい」と話していました

優秀公邸料理長の称号を持つ フレンチシェフが着任

10月6日、市の豊富な農畜産物の魅力を、新たな切り口で創出・発信する「食と農の魅力創生シェフ」として地井潤さんが着任しました。地井さんは、フランスやスイスなどの在外公館を始め、海外の星付きレストランでの経験も豊富。一流の技術や視点を通して、地域振興を図ります。

自然を活用し、地域活性化 竹川真文さんが協力隊に

10月1日、地域活性化と定住を目的とした総務省の「地域おこし協力隊」事業で、竹川真文さんを17人目の隊員として委嘱しました。前職は、愛知県でIT関係の会社に勤務。地方創生課に所属し、小林の自然を活用し観光客を呼び込むアウトドア活動などに取り組みます。



竹川さんは「インターネットなどを活用し、小林の自然を都会に住む若い人へPRしていきたい」と意気込みを語りました



小林産の食材にこだわった駅弁を食べる参加者ら。イベントは、吉都線利用促進に向けた取り組みの一環で行われました

JR 小林駅開業 105 周年記念 駅弁を 105 人で食べる

10月1日、JR 小林駅開業 105 周年を祝う「小林駅の駅弁を 105 人で食べるイベント（吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会主催）」が小林駅隣接のKITTO 小林で開催されました。約 120 人が会場を訪れ、記念式典や歌や楽器演奏などを実施。その後、参加者らは駅弁を味わいました。

取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、西小林地区

三世代ふれあい交流会開催

9月18日に西小林小学校体育館で「三世代ふれあい交流会」を開催しました。式典では、100歳、90歳になられた人の表彰や小学生からの手紙のプレゼントなどがありました。

お祝いのことばでは、小学1年生が「おばあちゃんの作ったチャーハンが大好きです」、「おじいちゃんとお風呂に入るのが楽しみです」

す」などと話し、三世代あるいは四世代が暮らす西小林の豊かさを感じました。

みなさんが楽しみにしていた余興では、サックス演奏や保育園児の太鼓、中学生の吹奏楽、有志による劇、三味線や日舞、フラダンス、青年団のひょっこり踊りなどを披露。内容盛りだくさんの楽しいひと時を過ごしていました。



末永く元気をお過ごしになり、私たちが笑顔で迎えます。

健康福祉部会長
南園ヨシエさん

遺族関係者ら 581 人が参列 戦没者追悼式を忠霊塔で開催

10月6日、戦没者追悼式が忠霊塔前広場で開催されました。塔には約 1600 人の戦没者が祭られており、式には 581 人が参列。遺族を代表して遺族協会の殿所頼明会長が「今の平和は、戦争で亡くなった多くの英霊たちの犠牲の上に築かれたことを忘れてはならない」とあいさつしました。



式典では、紙屋小の崎田彩郁さん（写真右上）と小林中の能勢雅也さん（同左）が「平和への想い」の作文を朗読しました



同協会の前田博俊会長は「今年は花の開花が遅れ、心配したが今年の出来は例年並み。サイズは例年より大きい」と話していました

例年より大きなナシが出来た 新興・新高の品評会開催

10月5日、西諸県農業改良普及センターで市果樹農業振興推進対策協議会とJAこばやし梨ぶどう部会によるナシ（新興・新高）の品評会が開催されました。【以下結果・優等および金賞のみ】●新興：協議会/JA…小原勇太●新高：協議会…永迫賢治/JA…西ノ村一真

三松中の生徒ら全国・九州大会へ

9月29日、三松中の陸上部1人とバレーボール部1人が全国大会、ハンドボール部3人が九州大会出場を市長に報告しました。陸上部の滝口俊人さんは「大会では、諦めない走りをして、自己新記録を目指します」と意気込みを話しました。



内村病院がユースエール企業に認定

9月27日、宮崎労働局が医療法人浩然会内村病院をユースエール企業に認定しました。ユースエールは若者の採用や育成、雇用管理が優れている企業を認定する制度。同病院は、残業時間や有休休暇の取得などの実績が認められ認定されました。



今年の須木栗は大きく、出来上々

10月4日、須木栗振興協議会が市に須木栗を寄贈しました。今年の須木地区の栗の収穫量は約80トンの見込み。齊藤輝昭会長は「今年の栗はとて大きい。これから、さらに全国にPRして多くの人に食べてもらいたい」と話していました。



今年も赤い羽根共同募金が始まる

10月2日、赤い羽根共同募金厚生労働大臣メッセージ伝達式が市役所応接室で行われました。社会福祉協議会種子田興市会長がメッセージを伝達。「地域福祉のために活用されるので、皆様のご協力をお願いします」と話していました。



老人クラブ会員らスポーツで交流

10月12日、こばやし友愛クラブスポーツ大会が総合運動公園陸上競技場で開催されました。市老人クラブ連合会の会員ら900人以上が参加。参加者は9チームに分かれ、ビン倒しやお手玉入れ、輪投げなどの競技で交流を深めました。



心豊かなまち目指し、福祉バザー開催

10月14日、市民体育館で第33回福祉バザーが開催されました。「お互いに助け合う心豊かな福祉のまちづくり」を推進し、住みよい社会環境を育むことが目的で、ボランティア団体など15団体が出店。バザーの益金は、福祉事業に役立てられます。



ナフコ小林店と災害時物資供給の協定

10月18日、ナフコ小林店と「災害時における物資供給に関する協定」を締結しました。山田康博店長は「積極的な支援や協力で地域へ貢献できれば」とあいさつ。災害発生時、物流が停止した際に、同店は優先して物資を供給します。



紙屋中陸上部の藤田あいさん全国へ

10月16日、紙屋中陸上部の藤田あいさんが全国大会出場を市長に報告しました。藤田さんは、8月に行われた県予選の女子B1500^{ふじた}で優勝し、出場権を獲得。「自分の力を100%発揮して、決勝に進めるようにがんばりたい」と抱負を述べました。

